



東京五輪にボイコットを表明している 委員会への支援メッセージ

パリ、2017年1月13日

東京オリンピックをボイコットしようという運動は、国際的な投資資本主義の野蛮な世界化を拒否する世界の全ての市民たちにとって、非常にいいニュースです。動植物へのエスカレートする抹殺、様々な公害による自然と都市環境の劣悪化、社会的不平等の巨大な増大、世界の新たな主たちに支配された多くの民衆の途方もない貧困化は、投機的利益の激烈な追及、暮らしのあらゆる分野に及んだ商品化、銀行家たち、億万長者やオフ・ショアの資本、マフィアのネットワークなどによる多国籍企業のオリガルシーによる富の独占などによって引き起こされた大損害について、自覚する契機となりました。

国際オリンピック委員会 (IOC) ーためらわなく幸福な少数者たち>の世界のショーウィンドーですがー は、民衆の集団的利害を守る代わりに、持続的発展、生態系の均衡を守る代わりに、同様に人権を守る代わりに、その個人的な繁栄を常に優先してきました。

それは、2008年の北京五輪の際に、IOCは、全体主義的国家で帝国主義的な中国国家和共犯であることを見せつけましたし、ソチ冬季五輪の際には、ヴラディーミル・プーチンの専制的で軍国主義的な体制と積極的に協力したことは、すでに見てきた通りです。IOCは、無責任な日本当局に依拠しながら、福島原発事故によって継続的に被害を負わされ、巨大地震の永続的な危機に瀕したこの国で、公害を起こし非常に馬鹿高いオリンピックを維持するという、予防の基礎的な原則さえも無視しました。IOCは、日本の住民が長期にわたって受ける利害を考慮することを拒否したのです。日本の住民は、スポンサーや広告主、貪欲な金融機関によって組織されるオリンピックのスペクタクルや、日毎の困難さを忘れさせる為に行われる社会的憂さ晴らしのスペクタクル、あるいは地域的紛争や挑発的軍事行動の胎動の源となる地政学的戦略地域で、『祭典』やオリンピックの『平和』という嘘に満ちた幻想を維持し続ける為に行われるスペクタクルより、もっと別のものを受け取る価値があるのです。

オリンピックのプロパガンダ、公共資源の浪費、メダルによる排外主義や攻撃的なスポーツによる民族主義に反対する為、東京五輪に反対する委員会と共に、国際的な広範囲の連帯運動を組織することが緊急の課題です。私の心からの共感と行動的な連帯を、皆さんにお送りします。

ジャン＝マリ・ブローム *

モンペリエ大学社会学名誉教授
『ケル・スポール』誌、国際学術評議会メンバー

*1940年ムルーズ生まれ。社会学者、哲学者。77歳。40年以上、スポーツや国際競技会、オリンピックの意味を問い、批判して来た反五輪のフランスにおける中心的論客。最初は高校の体育の教官だった。1968年以来、スポーツを批判的に問い、『スクタクルの社会』を批判して来たギー・ドゥポールの批判と親近性がある。

(仮訳：コリン・コバヤシ)